

Title	特集：伝統的・非伝統的な観点からの規範経済学：序
Sub Title	Normative economics from the traditional and nontraditional views : preface
Author	坂井, 豊貴(Sakai, Toyotaka)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2017
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.109, No.4 (2017. 1) ,p.555(1)- 556(2)
JaLC DOI	10.14991/001.20170101-0001
Abstract	
Notes	特集：伝統的・非伝統的な観点からの規範経済学
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20170101-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

特集：伝統的・非伝統的な観点からの規範経済学

坂井豊貴*

本特集は 2014 年 8 月 22 日に慶應義塾三田キャンパスで開催されたコンファレンス「Normative Economics from the Traditional and Nontraditional Views」の報告論文のうち、4 本を集めたものである。

このコンファレンスは慶應義塾経済学会からの資金補助を受け、第 14 回 Society for the Advancement of Economic Theory 世界大会のサテライトとして開催され、*Japanese Economic Review* 誌とその版元である Wiley 社からの支援を受けた。コンファレンスはこれら諸組織の共催となっている。

本特集に所収した 4 本の論文は、いずれも *Japanese Economic Review* 誌の Vol.66, Issue 2 に掲載された論文を邦訳して転載したものである。邦訳の転載にあたっては Wiley 社からの許可を得て、慶應義塾経済学会からのさまざまな支援を受けた。記して感謝する。

「良し悪し」を扱う規範経済学において、現代の通常の研究では、人々の選好それ自体の良し悪しについては扱わない。所与のものとして、与えられた選好のもとで、ある結果が良いか悪いかを考察するのが常である。こうした選好への無関心ないし不干渉は経済学に価値中立的な立場を提供する一方、そこで扱われている選好がどのようなものであるかを問題化しない。だが、ある選好が、熟慮に基づくものなのか、倫理はどれほど反映されているのかといった事柄は、社会を、社会科学を考えていくうえで、見過ごせない点である。

たとえば現代の規範経済学で最もよく使われるパレート効率性は、誰にも損をさせないで誰かに得をさせることを好ましいという。だが、その「得」は、あくまでその人の選好が上向くというだけであって、アル中がアルコールを消費することも「得」とカウントする。また、選好が時と場合により変わるのは、現実的によく見られることだ。たとえば自分はビスケットが好きだが、パーティーで最後に皿に残った一枚のビスケットは遠慮して取らないようにする、といったことである。この

* 慶應義塾大学経済学部
Faculty of Economics, Keio University

場合、その人自体は変わっていないのだが、あるときにはビスケットを好み、別のあるときには好まないように、観察者からは見える。そしてまた、いかなる選好の変容が好ましいのかに関する問題、たとえば無条件の愛は選好の形成を通じていかに社会に作用するかは、もちろん選好を所与とする通常モデルでは扱えない。

本特集に収めた4論文は、伝統的であったり、非伝統的であったりするが、いずれも上記のような事柄を意識している。あえて分類するならば、坂井論文・中村論文は「伝統的」の部類に属する。これらは選好を熟慮に基づく考えと解釈し、そこで集団的に正しい判断を行うための投票方式を説明することを試みている。バット・大垣・矢口論文は「非伝統的」であり、選好の内生的変化を扱う行動経済モデルを構築し、そこで無制限の愛がいかなる政策的含意を持つかを分析している。玉手論文はさまざまな伝統的・非伝統的な研究を、系統的なモラルと外生的なノルムの観点から分類し、当該分野の議論を整理している。

あらためて、コンファレンスの開催に惜しめない援助を与えて下さった慶應義塾経済学会に深謝する次第である。また、三田学会雑誌への掲載にあたり労をとられた編集委員やチェッカーの方々に感謝の意を表したい。

[コンファレンスの概要]

場所 慶應義塾三田キャンパス北館ホール

日時 2014年8月22日9時20分-17時45分

論題 Normative Economics from the Traditional and Nontraditional Views

・オープニングリマーク

Masao Ogaki (Keio University)

・プレナリートーク

Miles Kimball (University of Michigan) “Cognitive Economics”

一般報告

- ・ Vipul Bhatt, Masao Ogaki (Keio University), Yuichi Yaguchi “Normative Behavioural Economics Based on Unconditional Love and Moral Virtue”
- ・ Shintaro Tamate (Kanagawa University) “Systematic Morals and External Norms”
- ・ Daniel Benjamin (Cornell University) “A Theory of Fairness in Labor Markets”
- ・ Yuta Nakamura (Keio University) “Maximum Likelihood Social Choice Rule”
- ・ Toyotaka Sakai (Keio University) “A Search for the General Will in a Spatial Model”
- ・ Herakles Polemarchakis (University of Warwick) “The Theory and Practice of Economic Policy”